

1 単元名 器械運動（跳び箱運動）

2 単元の目標

- (1) 自分の力に合った新しい技に取り組んだり，安定した動作で今できる技の支持跳び越しができるようにする。 (運動の技能)
- (2) 友人と励まし合って仲良く運動をしたり，協力して器械・器具の準備や片付けをすることができるようにする。 (運動や健康・安全への関心・意欲・態度)
- (3) 自分の力に合った技を選び，自分の課題に適した練習の場や練習の仕方を考えることができるようにする。 (運動や健康・安全についての思考・判断)

3 指導にあたって (男子14名，女子21名，計35名)

運動の一般的特性として跳び箱運動は，器具を用いて，切り返し系や回転系の技で構成された運動の中から，自己の能力に適した技に挑戦し，それを達成したときに喜びを味わうことのできる運動である。新しい技に挑戦し，練習を工夫して徐々にできるようになってくると楽しいが，跳べないと感じると意欲が低下し，跳び箱への衝突や落下への恐怖感を持ちやすい運動である。

〈事前調査〉 (調査人数35名 平成24年9月26日実施)

学習体験	跳び箱運動についてどう思いますか。 ・まあまあ楽しい (20)・とても楽しい (12)・こわい (10)・痛い (9) ・簡単 (8)・難しい (8)・楽しくない (1) (複数回答)
	どのくらいとべますか。(回答平均) ・開脚跳び (6.4段) 台上前転 (5段) かかえ込み跳び (5.2段) とべない (1名)
ICT活用	これまでの算数などの授業で，先生が電子黒板を使った時，どう感じましたか。 ・分かりやすかった (22)・楽しかった (17)・やる気が出た (4) ・別に何でもなかった (3)・難しかった (2) (複数回答)
	友だちと協力して学習する時，電子黒板などを自分で使うとしたらどう思いますか。 ・友だちに教わるために使いたい (20)・自分で使ってみたい・友だちに教えるのに使いたい (10)・どんな活動に使えるのか分からない (5)・難しそう (5)

本学級児童は，体育学習への関心が高く，運動することを好む児童は多いが，走・跳・投などの基本的な技能の個人差が大きい。跳び箱運動に関しては事前調査から，積極的に取り組み，楽しいと感じている児童は多いが，一部恐怖感を抱いている児童もあり，できる技の範囲も限られている。

そこで，本単元では，グループにおける学び合い学習を取り入れ，自分自身や友人の課題に気づき，アドバイスをしあう活動や互いに安全確保をしながら励まし合って練習する活動を通して，恐怖感や困難感を乗り越えて取り組めるようにし，一人一人の技能の向上を図りたい。

さらに，情報教育の視点「教科指導におけるICT活用～各教科の目標を達成するための効果的なICT機器の活用～」として，学習指導要領解説に示されている3つの活用例のうち，「2) 授業での教員によるICT活用」と「3) 児童生徒によるICT活用」の2つを効果的に取り入れていく。その際，機器の利用が目的となってしまうように，場面やタイミング，内容を考え，自分自身の指導力に組み込まれるように努めたい。

実際の指導においては，自分なりの課題設定と練習から，グループでの課題設定と学び合いでの練習による活動に発展させ，跳び箱運動の特性と学び合う楽しさにふれさせ，課題解決していくことの方法を身につけさせるとともに，達成感を味わうことができるようにしていきたい。

4 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①	技を高めたり，できるようになる楽しさや喜びに触れることができるよう，器械運動に進んで取り組もうとしている。	① 自分の力に合った課題をもち，見通しを持って取り組もうとしている。	① 自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技，及びその発展技ができる。
②	約束を守り，友人と助け合って技の練習をしようとしている。	② 自分や友人の課題に気づき，課題に合った練習の場や方法を取り入れ，器械・器具を活用している。	
③	運動する場を整頓したり，準備や片付けに進んで取り組もうとしている。		

5 評価計画 (7時間扱い)

		1	2	3	4	⑤	6	7
主な学習内容		オリエンテーション	めあて①「今できる技で楽しもう」		めあて②「できる技のできばえをよりよくし，新しい技にも挑戦しよう」			発表会
評価観点	関心・意欲・態度	③	②	③	②	①	①	③
	思考・判断	①	①		②	②		②
	技能			①			①	①

6 本時の展開 (5 / 7 時間)

(1) 本時の目標

- 自分の力に合った新しい技に取り組んだり、今できる技のできばえをよりよくした支持跳び越しができるようにする。(運動の技能)
- 友人と助け合って仲良く運動をしたり、協力して器械・器具の準備や片付けをすることができようにする。(運動や健康・安全への関心・意欲・態度)
- ◎ 自分や友人の課題に気付き、課題に合った練習の場や方法を考えることができるようにする。(運動や健康・安全についての思考・判断)

(2) 人権教育の視点との関連

グループ内で、互いの課題解決のために工夫して練習に取り組む活動を通して、本校の視点(5)連帯感・正義感「お互いの願いや考えを認め合い、より高い価値の実現に向かって協力し合って困難を乗り越えようとする態度を育てる。」に迫りたい。

(3) 準備・資料

- ・跳び箱、マット、ロイター式踏切板、学習カード、電子黒板、WEBカメラ、パソコン

(4) 展 開

☆は人権尊重の心を育む配慮 ※は学び合いへの支援

時間	主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・と評価 (◇)
はじめ 5分	<p>1 学習内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合・挨拶、健康観察 ・本時のねらいと学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今できる技、新しい技のできばえをよりよくしよう。</p> </div> <p>2 準備運動と補強運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに準備運動 ・サーキットトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の健康状態を電子黒板画面上の名簿に各自記入させ、操作への関心につなげる。 ・安全な活動にするために、集合、挨拶の段階から真剣な取り組みへの意識を引き出す。 ・見学者もグループの一員として、できる範囲で活動するように助言する。 ・準備運動は、関節部を特にていねいに行うことを理解させて行わせる。 ・補強運動は、体力テストの結果から補強すべき内容と、本時の主運動につながる運動を順次行うようにする。
なか 35分	<p>3 グループ内でお互いの力を確認し、練習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題：グループ内の総合得点を〇〇点上げる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いによりチャレンジ内容の決定 <li style="margin-left: 20px;">Aチャレンジ → () 点上げる <li style="margin-left: 20px;">Bチャレンジ → () 点上げる <li style="margin-left: 20px;">Cチャレンジ → () 点上げる ・練習内容の見通し 「どんな内容で」「何を使って」 <p>4 グループ練習を行う。</p> <p>【タイムシフト再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEBカメラをPCに接続し、大型モニターで再生 <p>【模範動画・静止画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で自由に再生・書き込み <p>(予想される活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の変更 ・電子黒板の活用(模範動画) ・WEBカメラによるタイムシフト再生 ・教師からのアドバイス申請 <p>(児童に気づかせたい上達のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「助走」適度なスピードで ・「踏切」踏み切り板の効果的な活用 ・「空中動作」腰の高さ、 ・「着手」位置、突き放し、切り返し ・「着地」安定した両足着地 <p>(安全面・学び合いの約束事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の人への合図 ・助走前の合図 	<p>※グループの総合得点を上げるということは、自分の努力も必要だが、グループメンバーに目を向けて協力していくことが大切であることを、児童からの言葉で押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、前時までの活動の様子をもとに、グループにとって達成が可能となりそうなチャレンジ目標を設定できるように助言する。 ・グループごとの練習については、具体的な見通しを立てるように助言する。(タイムシフト再生や模範動画の活用が有効であることを助言する。) <p>☆技能、関心には個人差があることを互いに理解し、認め合い、その上で高め合っていくことが大切であることを意識させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由練習では、自分自身の上達の見通しとグループメンバーの上達の見通しをしっかりと持てるようにする。 ・練習に応じた場の変更(段、向き)やICT機器の操作は自由にできるようにするが、安全面に注意するように指導する。 ・児童の電子黒板の活用場面では、模範演技動画の確認や友達への説明が考えられるが、ICT活用のスキルアップの機会として、適宜指導をする。 ・児童の学び合いに上達のポイントへの気付きが出にくい様子の時には、個別指導や全体指導をする。 ・教師にアドバイスを求めることもグループで相談して決定をさせたい。 <p>※自分のめあてに向かって繰り返し練習している姿や、グループメンバーへの補助や助言を行っている姿に賞賛を与える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆ 自分や友人の課題に気付き、課題に合った練習の場や方法を考えて取り組んでいる。 【思考・判断】(観察・学習カード)</p> </div>
まとめ 5分	<p>5 本時の学習を振り返り、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の反省 ・次時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今できる技、新しい技のできばえをよりよくしよう。(継続)</p> </div> <p>6 整理運動・後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードをもとに自己評価、相互評価をする。 ・意欲的に取り組んだ児童や、友人と積極的に関わり、アドバイスができていた児童を取り上げ賞賛を与える。このことによって、学び合いの活動への意識付けを図る。 ・後片付けに協力して取り組めるように指導する。